

平成29年度
「地域力を高める公民館活性化モデル事業」(県委託事業)

成果報告書

平成30年3月
大分県公民館連合会

ごあいさつ

今日、人口減少社会の到来により、私たちを取り巻く地域社会は大きく変容しようとしています。

このような中、公民館は地域住民のコミュニティーづくりの拠点施設として機能し、子どもから大人までの地域住民の絆づくりを支えてきました。とりわけ、本県では学校・家庭・地域をつなぐ教育の協働を推進する拠点としても公民館が位置づけられ、子どもへの支援をとおして地域住民の生きがいづくりを創出する役割を担っています。

社会教育には地域の課題解決ができる人材育成が期待されており、公民館がその学習機会を提供する学び舎として、「まちづくり」を推進する拠点として機能を発揮することが大切です。そのためには、地域住民が集い、交流し、地域へ発信する公民館として、運営・活動ができる公民館職員の資質の向上が求められています。

昨年8月には、8年振りとなる九州地区公民館研究大会が、ここ大分の地で開催され、参加された皆様には各県公民館の優れた実践事例に触れることによって、改めて公民館の役割について多くの気づきや学びを得る場となりました。この大会を契機として、各地域での公民館活動の充実に努める機運を高めることができたことは何よりでした。この流れが途切れることなく、県内各地の公民館で学習を通じた「人材育成」を更に進める必要があります。

このたび、平成29年度「地域力を高める公民館活性化モデル事業」（県委託）を受託し、中津市三光公民館をモデル公民館に選定して、世代を越えた地域の絆づくりに資する事業に取り組んでいただきました。本報告書では、三光公民館からの事業報告書も踏まえ、活動の一端を御紹介することによって、各地域での公民館活動の参考にしていただければと願っております。

終わりに、本事業の成果が県内外に広がり、公民館を拠点として住民が生き生きと活動する地域づくりに御尽力いただきますようお願いいたしますとともに、皆様の今後、ますますのご健勝を祈念しまして、挨拶とします。

大分県公民館連合会

会長 中野 五郎

1 モデル事業の目的

人づくり、地域づくりの要である公民館活動の活性化を図るため、公民館が拠点となり地域と連携して、地域の課題解決に向けた様々な取組を行い、県内の公民館活動の充実・振興に資する。

2 モデル事業の概要

上記の目的を達成するため、県内の地区公民館を対象にモデル公民館を選定する。選定された公民館においては、公民館が地域活性化の拠点として人材育成につながる場となり、地域の実態に応じて、公民館を活用した地域課題解決の取組を行う。その際、取り組む活動内容は概ね以下のとおりとする。

- (1) 人が集う（地域の各種団体が互いに連携し、地域課題解決に向けて取り組む事業）
- (2) 世代を結ぶ（高齢者や子育て世代、子どもなどの各世代が交流する中で地域づくりへ貢献する事業）
- (3) 家庭を支える（子育てへの自信や対処能力の向上を図る親育ちを応援する事業）
- (4) その他（地域の活性化に資する事業）

3 モデル公民館による取組

(1) モデル公民館の名称 中津市三光地区公民館（中津市三光成恒437番地2）

(2) 事業の名称 「三光地域交流活動『めざそう!あいさつ世界一』運動」

(3) 事業のねらい

市町村合併後、旧三光村教育委員会が旧三光中央公民館から中津市三光支所に移り、さらには支所に置かれていた教育センターが廃止され、15地区の自治公民館の連絡協議会も廃止となった。これにより、これまでの三光公民館を支える組織がなくなり、三光地域全体の地域づくりの今後を考えると、地域福祉、地域防災、子育て支援等に関わるネットワークがさらに希薄になり、人と人とのつながりもこれまで以上に希薄になることが危惧される。また、地区により、公民館までの距離に格差があり、遠くの住民が集まりにくいいため、三光地域全体の情報が届きにくいことも挙げられる。さらに、15地区にある自治公民館同士の横のつながりも薄れてきている。

そこで、三光公民館と三光公民館運営委員会が中心となり、三光地域全体を考えた地域づくりの契機とするため、地域全体での「あいさつ運動」に取り組み、この運動により、地区間並びに世代間のつながりを強化する。

(4) 事業の内容（概要）

「めざそう!あいさつ世界一」のスローガンのもと、地区内の1中学校、4小学校、15自治区において運動を展開する。活動に当たっては、「あいさつ応援隊」を組織し、取組に関するPR活動を行い、三光地域のシンボリックな山である「八面山」にちなんで、毎月8日を「三光あいさつの日」に指定し、地域住民全体でスローガンを共有する。

また、あいさつ標語を児童生徒、住民から募集し、「あいさつ」は人と人をつなぐコミュニケーションの大切なツールであるとの意識を醸成する。さらに、「あいさつの大切さ」をテーマとした講演会を開催する。

(5) 具体的取組

①三光公民館運営委員会

三光公民館を中心に地域の諸団体等の代表により構成し、年3回開催した。「めざそう!あいさつ世界一」運動の具体的な取組を企画・提案するための三光地域交流活動実行委員会（以下、「実行委員会」とする）を立ち上げ、活動案の承認、協力体制の構築を図った。

②実行委員会

三光公民館を中心に、自治会、民生委員会、PTA、学校、中津市社会教育委員の代表で構成し、月1回の会議においてスローガンの決定、具体的な実施方法の検討、あいさつ標語の募集と審査、キャラクター制作と名前の審査などを行い、活動の中核としての役割を担った。

③「あいさつ応援隊」学校訪問PR活動

実行委員会が、各校区の自治委員等々に呼びかけ、学校行事や全校集会の時に、横断幕を持って、あいさつの意味や大切さなどを話し、教職員、保護者、地域住民に「めざそう!あいさつ世界一」運動の周知と協力を呼びかけた。



③「三光あいさつの日」

三光地域のシンボリックな山である「八面山」にちなんで、毎月8日を「三光あいさつの日」に指定し、域内の小中学校を「あいさつ応援隊」が訪問の上、住民と一緒に校門周辺であいさつ運動を実施した。この取組には中津市三光支所の協力を得て、前日と当日の朝、屋外放送で告知放送を行った。

④あいさつ標語、キャラクター名の募集

地域住民、小中学生に「あいさつ標語」の募集を行い、多数の応募を得た。作品は実行委員会で審査し、優秀作品を地域住民から2点、小中学生の各学年から2点選定した。優秀作品は3月4日（日）に開催された三光文化祭において表彰を行った。

キャラクター名は、前述した「八面山」の「八」と「あいさつ」「郷土をあいする心」にちなんで「あい八くん」とした。

あいさつ標語の大人、小中学生の最優秀作品は、のぼり旗に載せ、地域の各所に設置し、啓発活動を行った。



⑤三光地域交流活動講演会の開催

あいさつ運動の更なる充実をめざして、全国的にも著名な教育実践家である菊池省三氏を講師に迎え、「あいさつプラスワンでつながる人と人～豊かなコミュニケーション溢れる地域づくり～」と題して講演会を行った。講演会には30名の地域住民が参加し、ワークショップを取り入れた講演は、日頃接したことがない住民同士をつなげることができ、和やかな会となった。



4 取組の成果と課題

(1) 成果

- ①三光地域の地域づくりに意欲を持っている人材の掘り起こしができた。
- ②講演会を通じて、あいさつをはじめ、言葉や態度から生まれる良好なコミュニケーションが住民同士のつながりを更に深めることとなった。

(2) 課題

- ①各地区・学校で行われている児童生徒の登下校時も見守り活動との協働を進める方策を検討する必要がある。
- ②子育て世代の参加が増えつつあるので、PTA活動とも連動した取組につなげる必要がある。

5 これからの取組の方向性

中津市三光公民館では今回の取組を契機とし、今後も公民館を拠点として学校・家庭・地域の協働により、自他のよいところに気づき、互いに褒め、認め、励まし合う「あいさつプラスワンのあいさつ運動」を推進する。このことにより、郷土を知り、人を知りつながり を深めながら、ふるさとへの愛情を育む地域づくりを行うこととしている。

大分県公民館連合会としても、今回の取組を公民館関係者の研修会や研究大会において優良事例として広く紹介する機会を設け、地域住民の心の拠り所として「つどう・まなぶ・むすぶ」公民館活動を推進していく所存である。